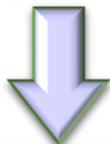


患者由来がん幹細胞培養を基盤とした革新的個別化医療開発

（二次公募採択課題：令和5年9月研究開始）

研究代表者：京都大学大学院医学研究科 消化管外科学講座 教授 小濱 和貴

■ 患者自身のがん細胞を活用した個別化医療研究の現状

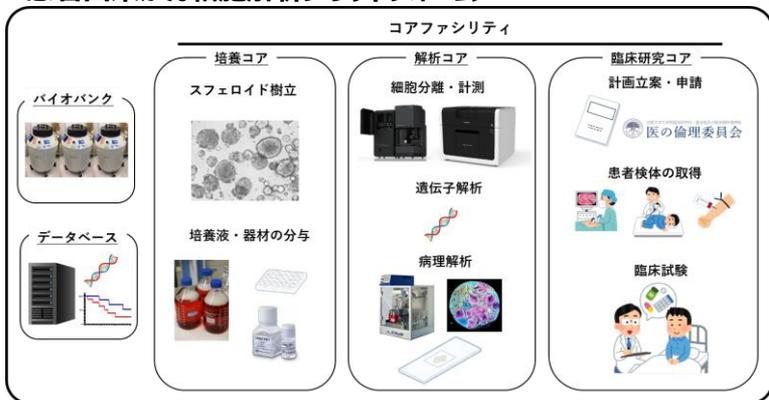


我が国は検体数、がん種、ゲノム情報等が少なく、米欧中に後れを取っている。また、患者由来がん幹細胞培養技術が医療サービスとして標準化されていない、In vitro薬剤感受性と臨床データの相関性が十分に解明されていない、測定技術・評価技術が確立されていないなどの諸課題を有している。

○ 研究開発プロジェクトの概要

「患者由来がん幹細胞スフェロイド培養技術」を基盤にした「**患者由来がん細胞解析プラットフォーム**」を産学連携で構築し、個別化診断や創薬への応用を目指す。本プラットフォームを円滑に運用し、様々ながん個別化医療技術の開発を加速させるため、京都大学を中心とした「**個別化医療開発コンソーシアム**」を設立する。

患者由来がん細胞解析プラットフォーム



■ コンソーシアム等

【代表機関】
京都大学

【分担機関】
関西医科大学、大阪医科薬科大学、高知大学、日本医科大学、京都府立医科大学

(株)SCREENホールディングス【幹事企業】、(株)AFIテクノロジー、京ダイアグノスティクス(株)、(株)ニッピ、三井化学(株)

■ 期待される研究成果

- 患者由来がん幹細胞を活用した高精度・高感度な診断技術の確立
- 細胞、タンパクに着目した新しい評価診断系により遺伝子情報を補完、多面的な個別化医療を実現
- 世界に先駆け、個別化医療を社会実装化

